

豪州の政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を1.75%に引き下げ

5月3日、豪州準備銀行（中央銀行）は金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを0.25%引き下げ、1.75%とすることを決定しました。一部の市場参加者は今回の利下げを予想していたものの、大半は据え置きを予想していたため、今回の決定は市場で驚きをもって受け止められました。利下げは1年ぶりとなります。

ポイント② インフレ見通しの低下に対応

今回の決定の背景には、豪ドル高などを受けてインフレ圧力が想定よりも低下していることがあります。

1-3月期のインフレ率は1.3%と市場予想を下回ったほか、同中銀のインフレ目標の2-3%を下回って推移しています。同中銀は金融政策決定会合後の声明において、インフレ率はしばらくの間極めて低水準にあり、最近のデータは予想外に低水準だとしています。また、労働コストの伸びが抑制されていることや、コスト上昇圧力が世界各地で非常に低いことなどが、インフレ見通しが従来の予想よりも低下することを示していると説明しています。

また同中銀は、豪ドル高が同国経済の鉱業への依存からの脱却を難しくしかねないとの見方を示しており、足元の豪ドルの上昇を警戒していることがうかがえます。

このような状況のもと、同中銀はインフレ率を目標レンジに戻し、経済を持続的に成長させるため、今回の利下げを決定しました。

ポイント③ 豪ドルは下落

5月3日の豪ドルレートは、対米ドルで前日比0.9%程度、対円で同1.6%程度の豪ドル安となりました。予想外の利下げ発表を受け、豪ドルは急落する格好となりました。

重要
イベント

5月31日	経常収支（1-3月期）
6月1日	GDP（国内総生産、1-3月期）
6月7日	金融政策発表

図1：政策金利の推移

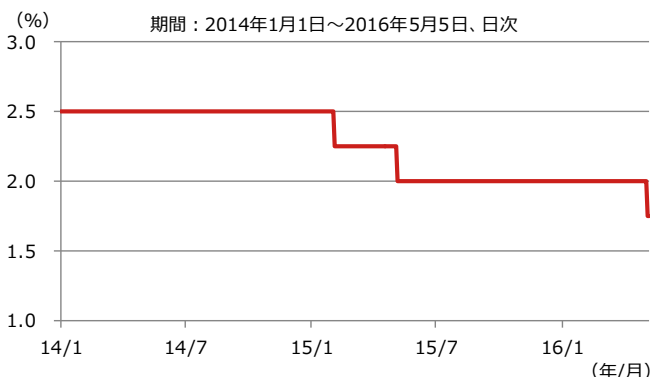


図2：消費者物価指数（前年同期比）の推移

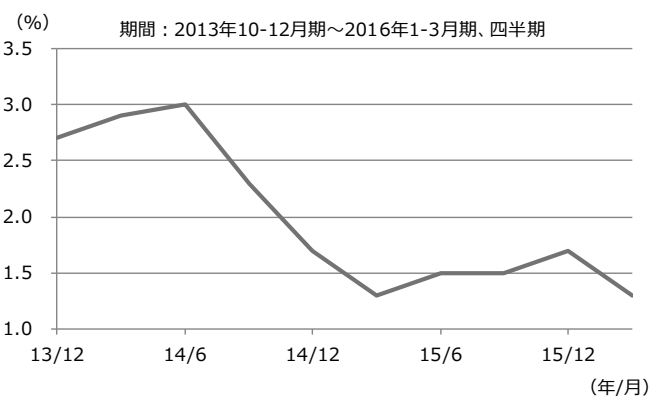


図3：為替レートの推移



(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。